



## 伏木地区ストリート構想

平成２８年２月

高岡市

## 目 次

|   |                      |   |
|---|----------------------|---|
| 1 | 目 的 . . . . .        | 1 |
| 2 | 対象エリア . . . . .      | 1 |
| 3 | ゾーニング . . . . .      | 1 |
| 4 | ルートの設定及び特徴 . . . . . | 3 |
| 5 | 取り組み方針 . . . . .     | 7 |



### ① 二上丘陵山麓に広がる万葉の歴史ゾーン

- ・二上丘陵の山麓に奈良時代の社が鎮座するゾーンで、重要文化財の氣多神社や大伴神社が立地している。
- ・高岡市万葉歴史館は、万葉集をテーマとした特徴的な施設で、このゾーンの拠点施設として期待される。また、他の歴史的・文化的資源とともに、ゆったりと古代・万葉を味わい学ぶことができるゾーンを形成している。



高岡市万葉歴史館



氣多神社

### ② 勝興寺を中心に旧寺内町の高台にある歴史の町並みゾーン

- ・旧射水川や伏木浦を望む高台に、古くは越中国庁が置かれ、中近世には勝興寺を中心に寺内町として栄えた地で、近代には、伏木港を見渡す望楼のある旧秋元家（北前船資料館）等が立地し、風情ある歴史的町並み景観を形成しているゾーンである。



勝興寺



旧秋元家（北前船資料館）

### ③ 旧伏木浦に栄えた近代みなと町ゾーン

- ・近代に港町として栄えた旧射水川（小矢部川）沿いの平地部分で、北前船を中心に廻船業で賑わった時代等、伏木近代史を物語るゾーンである。
- ・港町発展の礎を築いた藤井能三生家跡、旧廻船問屋の棚田家や往時をしのばせる町屋建築の町並み等、多くの歴史的・文化的資源が集積している。
- ・催事としては、伏木神社の春季例大祭として、毎年開催される伏木曳山祭り（けんか山）が挙げられ、その特異な伝統的祭礼が楽しめるゾーンである。



伏木コミュニティセンター



高岡商工会議所伏木支所

## 4 ルートの設定及び特徴等

### (1) ルート設定の考え方

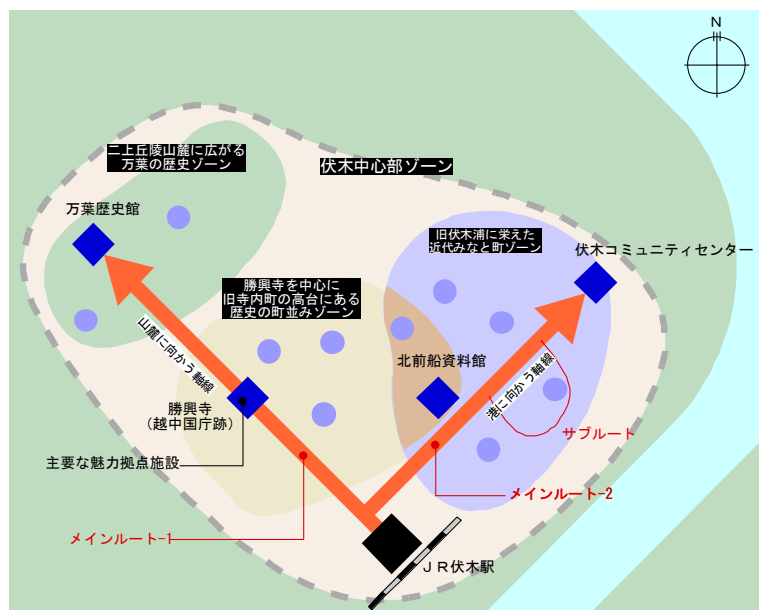
#### ア メインルート

- ・主要拠点として位置付けた施設を、周遊起点であるＪＲ伏木駅から、一つは勝興寺を経て万葉歴史館までの山麓に向かう軸線、もう一つは伏木コミュニティセンターまでの外港に向かう軸線として設定する。
- ・伏木中心部の三つのゾーンを貫く骨格軸ともなるので、できるだけわかりやすい直線的な通りをメインルートとして設定する。

#### イ サブルート

- ・歴史的時間軸及び地形的空間軸に特徴づけられる見どころを、所要時間毎に選んで巡ることができる多様なルート設定を行う。
- ・メインルートから分岐するループ状の動線とし、回遊性の高いルートとする。ループ状のルート設定がしにくいところは、行き止まりのルートとするが、環境整備をより充実することにより、周遊の動機づけを高めることとする。

### □ ルート設定の概念図



# □ルート図

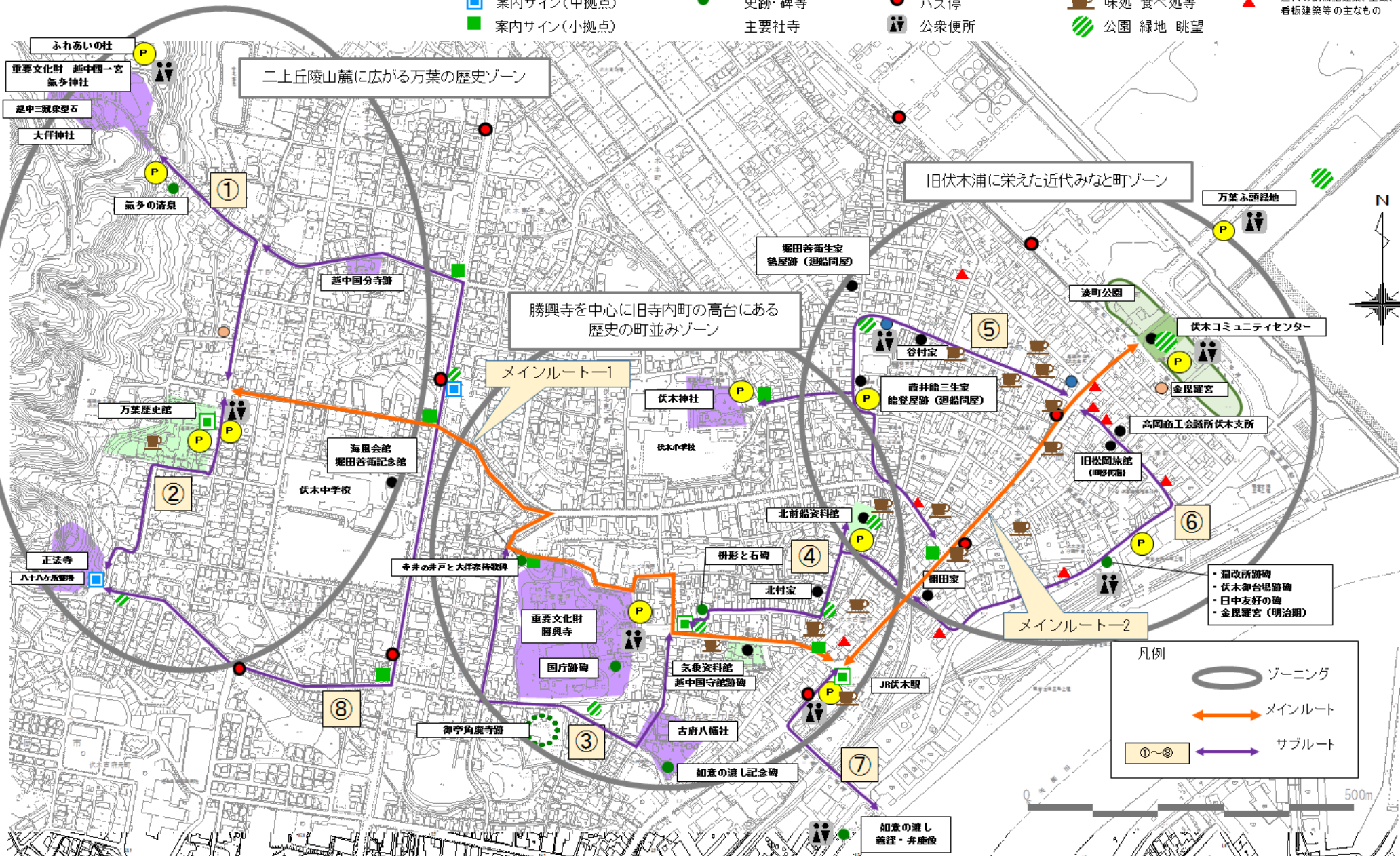
- 案内サイン(大拠点)
- 案内サイン(中拠点)
- 案内サイン(小拠点)

- 歴史的・文化的施設
- 史跡・碑等
- 主要社寺

- 神社
- バス停
- 公衆便所

- 電話
- 味処 食べ処等
- 公園 緑地 眺望

- 駐車スペース
- 近代の銅板貼建築、土蔵、看板建築等の主なもの



## (1) 各ルートの特徴等

### メインルートー1【特徴等】

- ・周遊起点のＪＲ伏木駅から勝興寺へまっすぐ伸びる新しい参道で、「伏木マイロード事業」で整備された景観道路と、勝興寺脇から万葉歴史館へ至る緩やかな勾配のある周遊ルートである。
- ・ルート上には、伏木地区随一の魅力拠点である勝興寺を中心に、越中国守館跡や国庁跡等の古代の歴史に触れる史跡や、万葉歌人大伴家持ゆかりの歌碑等がある。

【距離及び所要時間】約１，３００ｍ、約２３分



勝興寺への参道

### メインルートー2【特徴等】

- ・周遊起点のＪＲ伏木駅から伏木港へ向かう市街地内の幹線道路である。
- ・明治時代に奉迎道路として整備された地区のシンボル道路でもあり、伏木コミュニティセンターまでの直線的なルートである。
- ・ルート上には、銅板張り建築等が点在する等、近代の建築文化にもふれることができる。

【距離及び所要時間】約７００ｍ、約１３分



伏木曳山祭り（けんか山）

## ◇二上丘陵山麓に広がる万葉の歴史ゾーン

### サブルート①【特徴等】

- ・重要文化財の氣多神社やその境内にある大伴神社まで足を延ばす緩やかな坂道で、住宅地の中を経由する。
- ・深い杉木立や伏木市街の眺望等が楽しめる。

【距離及び所要時間】約７５０ｍ、約１３分



氣多神社までの杉木立

### サブルート②【特徴等】

- ・万葉歴史館から正法寺まで、住宅地の中を経由するルートである。
- ・正法寺裏手には、八十八ヶ所巡りを体験できる石仏群があり、山麓沿いに万葉歴史館に至ることができる。

【距離及び所要時間】約９００ｍ、約１６分



正法寺

サブルート⑧【特徴等】

- ・桜並木（十間道路）は、伏木中心部を南北に貫く国道である。昭和初期から受け継がれてきた桜並木の下を散策周遊するルートである。

【距離及び所要時間】約2,200m、約40分



十間道路

◇勝興寺を中心に旧寺内町の高台にある歴史の町並みゾーン

サブルート③【特徴等】

- ・勝興寺境内の周りの道路を、周遊するルートである。
- ・勝興寺から、門前の旧寺内町の路地を経由して、古府八幡社、御亭角廃寺跡を見ながら寺井の井戸に至るルートであり、伏木の歴史が詰まった見どころ多い道である。

【距離及び所要時間】約670m、約12分



寺井の井戸と万葉歌碑

サブルート④【特徴等】

- ・伏木高台にある勝興寺の旧参道で、格子や出桁等の伝統的様式の町屋が残る町並みが、旧寺内町の風情を残している。
- ・近代伏木の産業や文化を支えた瓦製造所跡や北前船資料館をはじめ、美しい藁の家並み等特徴的な景観を楽しむことができる。

【距離及び所要時間】約550m、約10分



寺内町通り

サブルート⑦【特徴等】

- ・散策基点の伏木駅から、小矢部川沿いにある「義経記」ゆかりの「如意の渡し」や「義経・弁慶像」までのルートである。

【距離及び所要時間】約700m、約13分



義経・弁慶像

◇勝興寺を中心に旧寺内町の高台にある歴史の町並みゾーン

サブルート⑤【特徴等】

- ・明治時代の近代産業発展の頃のメインストリートである本町通りと中道通りを通るルートで、かつては、廻船問屋、商店、旅館等が軒を連ねていた。
- ・沿線やルート周辺には、廻船問屋筆頭の鶴屋、能登屋を生家とする堀田善衛、

藤井能三らの屋敷跡が点在する。

【距離及び所要時間】約1,100m、約20分



藤井能三生家跡

#### サブルート⑥【特徴等】

- ・近代の旧伏木港で賑わった市街地を通るルートで、銅板建築、土蔵づくりの家、和洋折衷様式の近代建築等が点在している。
- ・小矢部川の開けた眺望が楽しむことができるルートである。

【距離及び所要時間】約700m、約13分



銅板建築

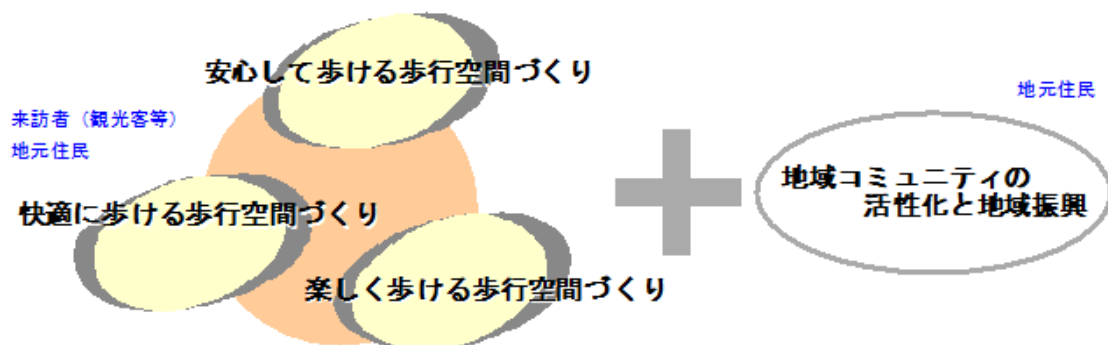
## 5 取り組み方針

### (1) 整備構想

今後、「歩いて楽しいまちづくり」を進めるためには、各ルートの特徴を活かしながら、諸課題に対応した整備を推し進めていく必要がある。また、伏木へ訪れる観光客を受け入れ、もてなす環境づくりと同時に、地元の人が安全で快適に、そして誇りを持って歩けるような歩行空間づくりも重要である。

そのため、行政のみならず、市民や民間事業者、その他の各種まちづくり団体等がそれぞれの役割分担のもとに協働で取り組みを進めるものとする。

#### □イメージ図



## (2) 取り組みイメージ

### ① 安心して歩ける歩行者空間づくり

歩行者が安心して歩くためには、歩行者に優しい交通環境を整えるとともに、初めて訪れる観光客等にもわかりやすい案内誘導システムが必要である。



・歩行空間の整備



・歩行系案内サインの充実等



・駐車場/駐輪場の確保

### ② 快適に歩ける歩行空間づくり

歩く人が心地よく感じる良質な歩行空間づくりのため、公共空間の整備や敷地の緑化等により、通りに潤いをもたらすことが重要である。

また、エリア内を周遊するには、休憩施設やトイレ等が必要であり、店舗など民間施設の協力も得ながら、休憩場所の整備とその情報提供に努める。



・ポケットパーク整備やトイレ施設等の充実



・地域資源の説明サインの充実



・周遊ルートの潤い充実



・風情ある町並みへの景観誘導



### ③ 楽しく歩ける歩行空間づくり

人が溜まる魅力あるポイントや賑わいを感じられること、体験できること、新たな発見があることなど、歩く人を飽きさせない仕組みづくりを図る。



・眺望ポイントの発掘



・土産物店、カフェ、飲食店等開設支援



#### ④ 地域コミュニティの活性化等

「伝統文化の体験」や「学習活動・地域活動」等を通じて、歴史文化資産は活用され、保全される。また、住民自らまちの歴史や由来を知ることによって魅力の再発見や愛着が生まれ、観光客等にも語るができる。

これらを推進していくために、住民自身による活動や、まちづくり団体・観光ボランティア団体の参画を図ることとする。